

さっぽろえんゆうじゅく ねん つど
札幌遠友塾20年の集い もくじ

1.	はじめのことば.....	1
2.	はじめのうた「ふるさと」.....	1
3.	<small>さっぽろえんゆうじゅくだいひょう</small> 札幌遠友塾代表あいさつ.....	2
4.	<small>どうそうかい さっぽろえんゆうかい かいちょう</small> 同窓会「札幌遠友会」会長あいさつ	5
5.	<small>らいひん</small> 来賓あいさつ.....	6
	<small>さっぽろしきょういくいいんかい さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこうちょう</small> 札幌市教育委員会 / 札幌市立向陵中学校長	
6.	<small>しゅくでん しゅくぶん しょうかい</small> 祝電、祝文の紹介	8
	<small>じしゅやかんちゅうがくはこだてえんゆうじゅく じしゅやかんちゅうがくあさひかわえんゆうじゅく</small> 自主夜間中学函館遠友塾 / 自主夜間中学旭川遠友塾	
	<small>ひと ぎ む きょういく せんもんいいんかい</small> すべての人に義務教育を！専門委員会	
7.	<small>せいかつたいけんはっぴょう</small> 生活体験発表	14
	<small>さっぽろえんゆうじゅく ねん</small> 札幌遠友塾3年	
	<small>さかい じゅんこ</small> 酒井 順子	14
	<small>さっぽろえんゆうじゅく ねん</small> 札幌遠友塾3年	
	<small>ふしみ ゆうこ</small> 伏見 裕子	17
	<small>さっぽろえんゆうじゅくそつぎょうせい</small> 札幌遠友塾 卒業生	
	<small>こんどう あさこ</small> 近藤 朝子	18
	<small>さっぽろえんゆうじゅくそつぎょうせい</small> 札幌遠友塾 卒業生	
	<small>やまもと たかこ</small> 山本 孝子	22
	<small>さっぽろえんゆうじゅく</small> 札幌遠友塾じゅくくりクラス	
	<small>いとう こ</small> 伊藤 フサ子	24
	<small>さっぽろえんゆうじゅく ねん</small> 札幌遠友塾3年	
	<small>やまかわ のぶこ</small> 山川 允子	30

くしろ	がくしゅうしゃ	ごとう	いさむ	
釧路くるかい	学習者	後藤	勇 33
さつぼろえんゆうじゅく		いとう	さとこ	
札幌遠友塾スタッフ		伊藤	郷子 35
ぜんどうじしゅやかんちゅうがく	しょうかい			
全道自主夜間中学	の紹介		 38
かいじょう	かんそう			
8.	会場からの感想		 41
9.	終わりのうた「今日の日はさようなら」		 42
10.	終わりのことば		 42
しりょう	えんゆうじゅく	しゅうねんきねん	しゅくぶん	
【資料】	遠友塾20周年記念	祝文とメッセージ	 43

(おことわり) あいさつをいただいた方や発表者、祝文・祝電などの氏名については

敬称を略させていただきます。

さっぽろえんゆうじゅくじしゅやかんちゅうがく ねん つど
札幌遠友塾 自主夜間中学20年の集い

と き：2009年9月20日（日）午後1時30分～4時

ところ：札幌市教育文化会館講堂

1. はじめのことば

しかい しんこう みやた ともこ こでら ひろおみ
司会・進行： 宮田 友子 小寺 寛臣



しかい こでら ひだり みやた
▲ 司会：小寺さん（左）と宮田さん

2. はじめのうた 「ふるさと」

よこやま はるみ しき かんざき
キーボード： 横山 晴美 指揮： 神崎 かをる

さつぽろえんゆうじゅく
3. 札幌遠友塾 あいさつ

だいひょう くだう けいいち
代表 工藤 慶一



みなさんこんばんは。この言葉から始めないと
ちょうし で わたし
調子が出ないです。私たちは、いつも「こんばんは。お晩でございます」というあいさつから始
ばん はじ
まりますね。今日は連休にも関わらずこのよう
きょう れんきゅう かか
に多くの方に「遠友塾 20年の集い」におこしをい

ただきまして、ありがとうございます。札幌遠友塾は1987年(昭和62年)、一昨年お亡く

なりになりました牧野金太郎先生が、戦前に50年続いた遠友夜学校という学校の記録を

み まな い あかし よろこ がっこう がっこう つく
見て「学ぶことが、生きることの証と喜びになる学校、そのような学校を作りたい」と

いう思いから、遠友塾読書会を作ったのが始まりです。牧野先生が遠友塾という名前を

くだ ねん じゅぎょう はじ ねん
つけて下さったのです。そうして1990年から授業が始まったわけです。そうして5年た

ち、10年たち、11~2年目頃にある問題が起きてきました。新聞に当時教室場所としてい

さつぽろしみんかいかん ねんご へいさ きじ の とうじ
た札幌市民会館が5年後に閉鎖するという記事が載っていました。もうすでに、その当時

えんゆうじゅく せいと あ にんきぼ おお しょたい
遠友塾は生徒さん、スタッフ合わせて150人規模の大きな所帯になっていましたので、

こまわ き つぎ ぼしょ もと もんだい
おいそれと小回りが利かず、どこに次の場所を求めるかという問題がでてきました。それ

ねんまえ しゅうねん とき わたし みなさま あら きょうしつぼしょ もと
で5年前の15周年の時に私は、皆様に「これから新たな教室場所を求めて、いろいろ

やっついていかなければいけない、とてつもなく、大きな困難に立ち向かっていかなければな

はなし ねん いま えんゆうじゅく しんかいかん ねん きょう
らない」というお話をしました。5年たった今、遠友塾は市民会館17年、今日のつどい

ぼしょ きょういくぶんかいかん ねん じだい ことし はる さつぽろしりつこうりょうちゅうがっこう あんしん
の場所である教育文化会館2年の時代をへて、今年の春から札幌市立向陵中学校で、安心

じゅぎょう おこな しせつ しょうりょう おおはば さ さ
して授業を行えるようになりました。あわせて施設の使用料が大幅に下がった、下げて

いただいた。おかげで、1期生から今年卒業された17期生まで283名の方が毎月1,500円
の授業料をお支払いいただいていたのですが、それを1,000円に下げることができたの
です。今年の3月までの卒業生の方には、誠に申し訳ないのですが、でもやはり、嬉し
いですね。こうしたことが可能になったのは、多くの方々のお力添えをいただいたおか
げです。札幌市の上田市長、北原教育長、そして歴代札幌市教育委員会の職員の方々に
暖かいご配慮をいただきました。また、私たちを心よくお迎えくださいました、
札幌市立向陵中学校の前校長の佐藤先生、それから現校長で今日来ていただいております
ます植村校長先生、さらに小原教頭先生をはじめ教職員の皆様、向陵中学校のPTA
と町内会の皆様、そして生徒の皆様に心よりお礼を申し上げます。また、全国の賛助会員
の皆様、北海道議会・札幌市議会全政党的議員の方々、札幌弁護士会の方々、
北海道教職員組合ならびに札幌市教職員組合の方々、授業プリントの無料コピーサー
ビスをいただいている富士ゼロックス北海道株式会社の皆様など、数多くの方たちの
ご支援に感謝します。この日を迎えることができた喜びを私たち札幌遠友塾関係者だ
けではなく、この間ご支援をさせていただきました全国の夜間中学の仲間たちとともに分かち
合いたいと思います。また、今日は旭川、函館、釧路の自主夜間中学の皆様にもお越し
いただいております。確実に北海道に夜間中学の人の輪が広がっており、今まさに交流が
始まろうとしています。こうした中であって、札幌遠友塾は受講生の方々の切なる要望で
ある「もっとゆっくり授業を進めてほしい」「社会科も増やしてほしい」「理科の授業も
受けたい」等々の要望にこたえるため、さらに授業内容の充実と時間数の増加を、いろ
いろな方々の協力のもとに、めざしていきたいと考えています。遠友塾が存在する

意義は、おそらくこれからも消えることはなく、ますますその役割は大きくなっていくのではないかと思います。さらに全道に自主夜間中学がますます増えていくことでしょう。

こうした中であって、将来を見据えながら、代表を含むスタッフの世代交代を視野に入れながら、もう二度と様々な理由で学校に行けなかった人たちの悲しみを見ることのない世の中をめざして、これからも少しずつできるところからやっていきたいと思ひます。

本日はこれまでの5年、10年、15年の集いのように、懇親のみのあつまりではなく、初め

て受講生、学習者の生活体験発表があります。「なぜ夜間中学で学ぼうと思ひたったか?」「学んでみてどうだったのか?」「そして卒業した方は今どうしているのか?」な

どを、私たちの記録として残し、学ぶことの大切さ、人と人との出会いの素晴らしさを若

い世代に伝えるとともに、もっと多くの人たちに遠友塾のような学び舎があることを知

っていただく契機にしたいと思ひます。今日お話ししてくれる方々は、このために勇気を

奮いおこしてくださいました。終りになりますが、1期生入学当時のスタッフであったお

二人が40代半ばでガンに罹ってお亡くなりになりました。その方のお名前は、今紺映一さ

ん、江良富士男さんです。まだ他にもいるのですが、このお二人は40代半ばで遠友塾と

ともにありたいという気持ちを持ちつつ、お亡くなりになりました。今紺先生と江良さん

が、今この場を天国から見たら、どう思われるでしょうか。共にこの日を迎えたかったと

いう思いと、これからも私たちを暖かく見守ってほしいという気持ちでいっぱいです。

ご清聴ありがとうございました。

4. 同窓会「札幌遠友会」あいさつ

かいちょう 井上 嘉裕
いのうえ よしひろ

みなさん、ただいまご紹介をいただきました、同窓会「札幌遠友会」を預かる井上で
す。私も代表にならい、「こんばんは」を使わせていただきます。みなさんこんばんは。

札幌遠友塾自主夜間中学「20周年の集い」、この記念すべき日の盛会を祝し、同窓会を
代表して「誠におめでとうございます」と、お祝いを申し上げます。

20周年を迎えた今日、長く望んでいた学校での受講が、関係者のご支援により、札幌市立

向陵中学校で実現しました。受講生の喜びはいっぱいと思われ、私たち同窓生も非常

に嬉しいことです。開校以来同窓の友も、17期を数えます。学んだ友も400余名を数えま

す。私たちが学んだ事は、日々の生活に十分生かされ、喜びを味わっています。もし学

ぶご縁がなかったらと考えるとき、あらためて「札幌遠友塾自主夜間中学」での、学ぶ

ことの大切さに、熱い思いが込み上げ、塾運営の関係皆様、塾をご支援下さった皆様に

厚くお礼を申し上げます。大変、ありがとうございました。

あとになりましたが、ご参集の皆様様の益々のご健勝と、母校「札幌遠友塾自主夜間

中学」の愈々の発展を、ご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

5. 来賓あいさつ

さっぽろしきょういくいんかい しょうがいがくしゅうすいしんか
札幌市教育委員会 生涯学習推進課

うえの しゅういち
上野 秀一

わたし さっぽろしきょういくいんかいしょうがいがくしゅうすいしんか うえの まな ひと い
私は札幌市教育委員会生涯学習推進課の上野といます。「学びたい人が生きるこ

あかし よろこ みいだ ぼ なかま とも たの まな ぼ めざ へいせい ねん がつ
との証と喜びを見出せる場、仲間と共に楽しく学べる場」を目指して、平成2年4月に

さっぽろえんゆうじゅくじしゅやかんちゅうがく かいせつ はや ねん むか ほんとう
札幌遠友塾自主夜間中学が開設されてから、早20年を迎えられたとのこと、本当におめで

ねんれい と みずか まな いよく もつ かがた たい まな ぼ そうしゅつ
とうございます。年齢を問わず、自ら学ぶ意欲を持つ方々に対して、その学びの場を創出

かつどう と ぎ よ ひ むか ざいせき じゅくせい
する活動が途切れることなく、この佳き日を迎えられたことは、在籍されている塾生の

みなさま めい そつぎょうせい みなさま じゅくかつどう くろう
皆様、そして400名をこえる卒業生の皆様はもとより、これまで塾活動にご苦勞されて

かがた よろこ はいさつもう
きたスタッフの方々におかれましても、お喜びはひとしおのこととご拝察申しあげると

まな ぼ さきほど はなし いま
ころでございます。学びの場につきましては、先程ちょっとお話ございましたように、今

しみんかいかん きょういくぶんかいかん うつ かいせつ ねんめ むか
まで市民会館、ここの教育文化会館と移りましたけれども、ちょうど開設20年目を迎えま

ことし こうりょうちゅうがっこう きょうりよく え がっこう きょうしつ りよう
す今年、向陵中学校の協力を得まして、学校の教室を利用することができるように

たの まな とお たの まな とも え い い じんせい おく
なりました。楽しい学びを通して、楽しい学びの友を得て、生き生きとした人生を送られ

しょうがいがくしゅうしゃかい じつげん い おも こんご
るということは、まさに生涯学習社会の実現そのものと言えるかと思えます。今後も

すえなが みなさまがた あつ おも ちからぞえ さっぽろえんゆうじゅく も あ おも
末長く皆様方の熱い思いと力添えで、札幌遠友塾が盛り上がっていただければと思っ

ています。

さいご さっぽろえんゆうじゅくじしゅやかんちゅうがく こんご はってん みなさまがた
最後になりましたが、札幌遠友塾自主夜間中学の今後のますますの発展と皆様方のご

けんしょう きねん かんたん か
健勝を祈念いたしまして、簡単ではございますが、あいさつに代えさせていただきます。

それでは私わたしも「みなさん、こんばんは」向陵中学校こうりょうちゅうがっこうの校長こうちょうを務めております植村うえむらと
申もうします。向陵中学校こうりょうちゅうがっこうには皆様みなさまと同じように、この春はる着任ちやくにんいたしました。先程さきほど、工藤くどう
代表だいひょうから遠友塾えんゆうじゅくのこれまでのご苦勞くろう、いろいろ感かんきわまる言葉ことばを詰つまらせながらのお
話はなしを伺うかがいまして、きつとこれまでいかにどの苦勞くろうがあり、また、同時どうじにいかほどの喜よろこび
があったのかということことを、感かんじながらお聞ききしておりました。4月22日がつにちだったでしょう
か、本校ほんこうに最初さいしょに皆様みなさまをお迎むかえした入学式にゅうがくしきの日ひ、夕方ゆうがたから学校がっこうが大変華たいへんやいでまいりま
して、スタッフかたがたの方々せいと、生徒みなの皆さんかんけい、そして関係かたがたの方々つぎつぎが次々ほんこうと本校はいに入みられて、皆みな
さんにこやかに、本当ほんとうに初々ういういしい入学式にゅうがくしきの雰ふん囲いき気がたいらいまいしゅうだよっておりました。以来毎週
水曜日すいようびになりますと、本当ほんとうに楽したのそうに皆様みなさまがお見みえになり、いつも真剣しんけんに、そして明あか
い雰ふん囲いき気で授業じゅぎょうの準備じゅんびを進すすめられている姿すがたを拝見はいけんしながら、教育きょういくの原点げんてんを見みているよ
うな、そんな思おもいをいおまかせおまかせしていただいいています。夕方ゆうがた特とくに最近さいきんのように日ひが短みじかくなっ
てきますと、教室きょうしつや廊下ろうかに電でん気きがついて、皆みなさんの明あかるい声こえが、教室きょうしつの中なかや廊下ろうかに響ひび
ようになりますと、「ああ、校舎こうしゃはきつとここういいうことことのためために作つくられているんだな」と
いいうことことをつつくづく感かんじます。通常つうじょうですと日中にちちゅう授業じゅぎょうが終おわり放課後ほうかごになると、ああとは静しず
かに明日あすの授業じゅぎょうを待まつのですが、おおかげさまで毎週水曜日まいしゅうすいようびには皆みな様方さまがたをお迎むかえして校舎こうしゃ
はきつと喜よろこんでいると感かんじている次第しだいです。中ちゅう学校がっこうといいうのは、放課後ほうかご活かつ動どうも多おおく、皆みな様
には使用上しょうじょう大たい変へんご迷めい惑わくをぶかかけていいる部分ぶぶんがあるおもとは思しいますが、今こん後ごとも工藤代表くどうだいひょうはじ
め、関係者かんけいしゃの方々かたがたと調ちよう整せいさせすていいただよきまなながら、少すこしよでも良よい学まびの場ばが提てい供きようできるよ
うな、そがういがう学校がっこうであかんりがたいがいと考かんえておかんが

20周年、人でいえば成人式にあたるお祝いの時、遠友塾のみなさんが向陵中学校は

じめいろんな場所で学びを深めていかれますことを、心よりお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は本当に、おめでとうございます。

6. 祝電、祝文の紹介

神崎 かをる

祝電 自主夜間中学函館遠友塾

代表 今西 隆人

札幌遠友塾開校20周年おめでとうございます。

20年間、心あたたまる学びの場を支えてこられたスタッフの皆様、そして札幌遠友塾

で学び、学んでこられた受講生の皆様のますますのご発展を道南の地よりお祈りいたします。

祝文 自主夜間中学旭川遠友塾

代表 古野 博明

札幌遠友塾自主夜間中学の設立20周年、まことにおめでとうございます。2008年4

月に開校した自主夜間中学旭川遠友塾から、札幌遠友塾が20周年の集いを迎えられ

ましたことに対し、一言お祝いのご挨拶を申し上げます。

1990年に、さまざまな事情で義務教育を修了できなかったり、形のうえでは中学校

を卒業はしたけれどもさまざまな事情で実際には十分な学習の条件や環境に恵まれ

なかったりした人々のために、北海道にはじめて「自主夜間中学」を名乗る私塾が設立さ

れたのは実に画期的なことでありました。以来20年間に約400人の方々がこの私設夜間

学校の門をくぐり、たがいに学び合い励ましあってこられました。この事実はスタッフお

じゅこうせい ふんとうどりよく けっか あさひかえんゆうじゅく ぎょうせき たい
よび受講生のみなさんの奮闘努力の結果であって、旭川遠友塾としてもその業績に対し
ところ けい い ひょう ねん そくせき ふか まな
心から敬意を表するものであります。またその20年の足跡に深く学ばせていただく
しょぞん
所存にございます。

かんが ひと いっしょう う し にんげん
考えてみますと、人の一生にはかぎりがありますが、生まれてから死ぬまで、人間と
いうものはどういうわけか自分を伸ばしたくて伸ばしたくて仕方がない。素質がどうであ
ろうと、どんな能力をもっていようがいまいが、そんなことはおかまいなしに、そう願っ
てやまない不思議な性質をもっているようであります。幼少のころから、学童期青年期
はもちろん、大人になりやがて老齢の時期を迎えても、何人もそういう気持ちにかわりは
なく、そして教育というものは、どうみてもそういうひたすらな人間の想いを助ける仕事
というほかないように思われます。だからこそ、公教育とりわけ義務教育があぶないと
いわれております今日、正規学校の役割がますます重要視されなければならないと思われるのです
が、と同時に札幌遠友塾が20年にわたって実証してこられたように、学校や勉強に恵
まれなかった人々のニーズに応える私設のフリースクールも公共社会の持続にそって
さよう ちいきしゃかい さくねんあさひがわ じしゅ
作用するものとして地域社会にあっていいはずです。おくれませながら昨年旭川に「自主
やかんちゅうがく た あ ひとりひとり じはつてき ころざし もと あつ わたし
夜間中学」を起ち上げるために、一人一人の自発的な志に基づいて集まった私たち
きょうつう おも こた わたし
の共通の想いもこういうニーズに応えようとしたところにありました。私たちはまだ
ねんはん まず けいけん かん しこうさくご
1年半の貧しい経験しかもちませんが、その間あれこれ試行錯誤し、マインドサポーター
ひとびと しえん う まな
をふくめさまざま人々の支援を受けて、いろいろなことを学びつつあります。たとえば、
ひと ちが ひとり たにん おな なに し なに
人には違いがあり、だれ一人として他人と同じということはない。何かを知りたい、何か
ができるようになりたいという、その何かも、人によってさまざまです。がんばって勉強

したいとおもう時期や年齢も違っていい。と言いますか、違ってくことを私たちは認めてかからなければいけないということもその一つです。その背後には個人個人のそれぞれさまざまな事情が控えているからです。けれどもがんばって勉強してみたいというのはみな同じで、老若男女、古今東西を通じて同じことがいえるということもここに付け加えることができます。そして私たちがまた独自に議論を交わして、同様に、明治27年札幌に誕生し、昭和19年に軍の指示により廃校のやむなきにいたった、札幌遠友夜学校のふるきよき伝統にちなんで自主夜間中学旭川遠友塾を名乗ることにしたのです。遠友夜学校の創設者新渡戸稲造の高邁な理想のように、なかなかいきませんが、なんとかがんばってこの試みを継続させたいと思っているところでございます。勉強は楽しいことばかりとはかぎらないけれども、なんとしても中学程度までは学んでみたいという人がいて、そういう人がいるのであれば、手弁当でもがんばって教えてみようという人が集まってきて、そういうボランティアの活動は地域社会、公共社会にあっていいと共感して裏方の仕事に参加する人もいます。学ぶために門をたたいた者も、教えることに意欲を掻き立てられた者も、これら両者を裏側から支えようとしている者も、この地道な営みを通じて、互いに学び直す。こんなことを考えながら私たちは、この一年半の経験をふまえて「自主夜間中学」の試みがそういう人々の学び合い、励まし合いの場になることを願っているわけなのであります。生涯にわたって学習することを、そういう人間本来の営みを、諸個人に共通する問題としてもっともっと大切にしたいと考えております。

また札幌遠友塾の20年の歴史にもしっかり学んで、みずからの歩みを一步一步すすめてゆく所存にございますので、今後もいろいろとご教示いただくことがあるかと思っております

が、どうぞよろしくお願ねがいいたします。

ほんじつ ほんとう
本日は本当におめでたうございました。

しゆくぶん ぜんこくやかんちゅうがっこうけんきゅうかい ひと ぎ む きょういく せんもんいんかい
祝文 全国夜間中学校研究会・すべての人に義務教育を！専門委員会

いいんちよう せきもと やすたか
委員長 関本 保孝

さつぼろえんゆうじゅく しゅうねん ほんとう
札幌遠友塾20周年、本当におめでたうございます。

さつぼろえんゆうじゅく ぜんこくやかんちゅうがっこうけんきゅうかい つよ かか ねん どうきょう あらかわたいかい
札幌遠友塾と全国夜間中学校研究会との強い関わりは、2002年度東京・荒川大会か

はじ たいかい ぜんこくかくち こうりつやかんちゅうがっこうかいせつ め ぎ にほんべんごし
ら始まりました。この大会で、全国各地への公立夜間中学校開設を目指し、日本弁護士

れんごうかい じんけんきゅうさいもう た おこな じんけんきゅうさい もうしたてしよ こっし さいたく たいかい
連合会に人権救済申し立てを行う「人権救済の申立書(骨子)」を採択しました。大会

のシンポジウムに代表の工藤さんが参加され、遠友塾のみなさんの学びへの思いを熱く

かた かんどう おぼ ご にほんべんごしれんごうかい くわやま ちゃき
語られ、感動したのをよく覚えています。その後、日本弁護士連合会に桑山さんや茶木さ

んはじめ生徒さん・スタッフのみなさんが陳述書や作文・資料を提供してくださり、2006

ねん がつとおか にちべんれん くに いけんしよていしゅつ かん さつぼろえんゆうじゅく と
年8月10日の日弁連の国への意見書提出につながりました。この間の札幌遠友塾の取り

く たいへんすば おお しげき う こま まいしゅう がくしゅうかい と く
組みは、大変素晴らしく多いに刺激を受けています。きめ細かい毎週の学習会の取り組

みはもちろんのこと、さくぶんなど こうりゅう ためんてき じゅうじつ こうりょうちゅうがっこう
作文等の交流や多面的で充実したホームページ。向陵中学校の

きょうしつ しょう ぜんご こうりょうちゅうがっこう こころ こうりゅうなどなど じしん こころ
教室が使用できる前後の向陵中学校との心あたたまる交流等々、わたし自身の心も

あたたかくなり、あたま おも さつぼろし ほっかいどう ぎょうせい ぎかい
あたたかくなり、頭がさがる思いです。また、札幌市や北海道の行政および議会への

せっきよくてき ほとん さいぼろえんゆうじゅく かんけいしやなど ちゅうしん ねん がつ せつりつ
積極的な働きかけや、札幌遠友塾関係者等が中心となり 2007年5月に設立した

ほっかいどう やかんちゅうがく かい たよう ないよう もくひょう ほっかいどう はばひろ
「北海道に夜間中学をつくる会」の多様な内容の目標、そして北海道での幅広いネット

づく しょうらい み と く ひじょう さんこう さ
ワーク作りなど、将来を見すえた取り組みもとてもいいもので非常に参考になります。去

る 7月26日の東京都江東区での全国夜間中学校「すべての人に義務教育を！専門

委員会」主催の交流会には、札幌遠友塾より7名も参加して下さりありがとうございました。

工藤さんをはじめ、2名の生徒さんの素晴らしいお話を聞き、まわりの方々から

も「感動した」と感想が寄せられました。

この間の全国夜間中学校研究会のその他の取り組みを少し紹介します。9月18日（金）

には全夜中研関係者5名で千葉市教育委員会を訪問し、第2次5カ年計画に盛り込まれて

いる「中学校夜間学級の検討」の進み具合について話を聞きました。現在定期的に市

教育委員会内で設置検討会議を開き、来年5月には最終的な「夜間学級設置案」が出さ

れるとのこと。担当の方からは大きな熱意を感じ、「公立夜間中学校開設までそう遠

くない。」との嬉しい感触をえました。また9月25日（金）には全夜中研専門委員会で

都立墨東特別支援学校・かもめ分教室・成人グループを見学することになっています。

ここでは現在小学部・中等部・高等部で計8名、かつての義務教育就学免除・猶予によ

り学校へ通えなかった成人の障がい者の方々を昨年度より受け入れています。これは

昨年12月の全夜中研第54回大会で採択した「すべての人に義務教育を！21世紀プラン」

の中の「既存の学校での義務教育未修了者の受け入れ」を具体化するものであり、大変

注目しています。今後ますます、札幌遠友塾が発展し、多様な義務教育未修了者の大き

な灯台・母港となり、公立夜間中学校開設を始めとした行政の施策が充実するよう、心

よりお祈りします。ぜひ、また札幌遠友塾におじゃまし、みなさんと交流できる日を楽
しみにしています。

では、みなさん、お体に気をつけ、楽しく学び、ご活躍ください。

しゅくぶん しめい しょうかい
祝文（氏名のみ紹介）

さっぽろしぎかいぎいん むねかた まさとし
札幌市議会議員 宗形 雅俊

ほっかいどうぎかいぎいん みちした だいき
北海道議会議員 道下 大樹

(※ しりょう ぜんぶん けいさい らんくだ
資料のページに、祝文の全文を掲載しますので、ご覧下さい。)

しかい それから、あさひかわえんゆうじゅく しきし
司会 それから、旭川遠友塾のみなさんから色紙をいただいております。ありがとう
ございました。

はな さっぽろえんゆうじゅくどうそうかい な
お花をいただいております。札幌遠友塾同窓会からひとつと、亡くなられた

えらふじお おくさま もと えらまりこ
江良富士男さんの奥様で元スタッフでもあった、江良真理子さんからいただい

ております。それからおたる さんじょかいいん さいとうひろゆき
小樽の賛助会員の斎藤博行さんからいただいております。ありがとう
ございました。

7. 生活体験発表

札幌遠友塾 3年 酒井 順子



みなさん、こんばんは。私は遠友塾で
学んで5年目です。16期生で、再履修2年
を学ばせて頂いています。1年生の時は
教室でテレビ局の人達に写真を写され
るのもいやでした。2年生頃からだんだん
慣れてきて気にならなくなりました。学ぶ

ことによって、人は変わっていくのだと思いました。学んで5年目、遠友塾20周年、この記念する時にあたり、私は今まで心の中に封印していた過去を開こうと思い、全国夜間中学校研究会で心の封印を開き、発表を致しました。東京で発表したことを発表致します。

—遠友塾との出会いに感謝—

私は昭和18（1943）年生まれです。就学期の時、自分が思うように学習できませんでした。理由は小学校2年生の時父が倒れて入院したが、思わしくなく、市立病院に転院しました。私が学校から帰って来た時、母に、明日から働かないとお金がなく、生活ができませんと言われました。生後3ヶ月の妹の子守を母から頼まれ、子どもごころにも「助けてあげたい」と思いました。知り合いの世話で、農家の田植えに行くことになり、翌日から母は働き、私は妹をおんぶし、1ヵ月学校を子守のために休みました。1ヶ月後学校に登校したが、勉強が進んで分からないことが沢山ありました。先生から休んだことを叱られ、悲

ひび
しい日々でした。

ご ちち げんき はは むり わたし ねんせい ときびょうき にゅういん
その後、父は元気になりましたが、母は無理がたり、私が4年生の時病気になり入院。

さい いもうと つ がっこう い な いえ かえ な せんせい
2歳の妹を連れて学校に行きましたが、おなかがすいたと泣き、家に帰りたいと泣き、先生
から「かわいそうだから帰らなさい」と言われ、家に1時間ばかりで帰って来ました。家事

しごと こもり はは みまい まいにちたいへん べんきょう じかん くる
の仕事、子守、母の見舞い、毎日大変で、勉強する時間はありませんでした。ともに苦し

せいかつ がんば いもうと よくねんびょうき きゅうし さい げつ みじか いのち いま わたし
い生活を頑張った妹は翌年病気で急死しました。3歳3ヶ月の短い命でしたが、今も私

こころ なか い ねんせい たんにん せんせい ねっしん きょういくしゃ いえ じじょう りかい
の心の中で生きています。4年生の担任の先生は、熱心な教育者で、家の事情を理解して

にちようび ひ おく べんきょう せんせい いえ おし いただ せんせい わたし じんせい
いただき、日曜日の日、遅れている勉強を先生の家で教えて頂きました。先生は私の人生

おんじん ちゅうがくせい ときわたし びょうき きかい
の恩人です。中学生の時私が病気になってしまい、そんなわけでいつか機会があれば、

きそがくしゅう まな きぼう も つづ
基礎学習から学びたいと希望を持ち続けていました。

わたし しょうがいわす ひ き ねん がつ にちあさ ほっかいどうしんぶん み
私に生涯忘れられない日が来ました。1990年3月25日朝、北海道新聞を見ましたら、

さっぽろ じしゅやかんちゅうがっこう かいこう きじ めいじ ねん に と べ
札幌に自主夜間中学校が開校されるという記事がありました。明治27(1894)年に、新渡戸

いなぞう さっぽろ ひんこんかていしていきょういく せつりつ えんゆうやかんがっこう きょういくせいしん う つ
稲造が札幌に、貧困家庭子弟教育のために設立した「遠友夜間学校」の教育精神を受け継ぎ、

えんゆうじゅく な づ えんゆうじゅく まな いよく ひと ねんれい と だれ う
「遠友塾」と名付けたこと、また遠友塾は、学ぶ意欲のある人なら年齢を問わず誰でも受

い か わたし よろこ むね め まえ ひかり かがや
け入れると書いてありました。私は喜びで胸がいっぱいになり、目の前が光り輝くよう

かてい じじょう まな ていねんたいしよくご えんゆうじゅく もん
でした。家庭の事情ですぐ学ぶことができず、定年退職後、「遠友塾」の門をたたくことが

ゆめ べんきょう で き かんげき ことば い あらわ で き
できました。夢がかなって、勉強することが出来て、感激で言葉に言い表すことが出来な

こうふく まいにち まな い よろこ かつりよく わたし じんせい もくひょう
いほど、幸福な毎日です。学ぶことが、生きる喜び、活力になり、私なりに人生の目標

わたし えんゆうじゅく まな ねんめ まな あかし ろうどくほうしかい しゅう
ができました。私は遠友塾で学んで5年目になります。学びの証として、朗読奉仕会で週

かいろうどく いただ じびょう もうまくはくり しりよく かがい ひと
1回朗読をさせて頂いております。持病の網膜剥離がありますが、視力のある限り、人と

しょうがいまな つづ おも
して、生涯学び続けていこうと思います。

えんゆうじゅく であい わたし じんせい たからもの ことしえんゆうじゅく しゅうねん むか わたし
遠友塾との出会いは私の人生の宝物です。今年遠友塾は20周年を迎えました。私も

れきし あゆ なか まな しあわ よろこ いただ せんせいがた ひとり ひとり ところ
その歴史の歩みの中で学ぶ幸せと、喜びを頂きました。先生方お一人お一人に、心から

かんしゃ もう ぶん とうきょう はっぴょういた ぜんこくたいかい
感謝を申し上げます。ありがとうございます。この文を東京で発表致しました。全国大会

しゅつせき おお ひと であ ひと たいせつ まな でき
に出席して、多くの人たちとの出会いから、人として大切なものを学ぶことが出来ました。

わたしじしん い かた さいにんしき たいけん ば あた いた かんしゃ もう
私自身これからの生き方を再認識しました。このような体験の場を与えて頂き感謝を申し
あ
上げます。

きょう いわい あいさつ えんゆうじゅく しゅうねん
今日のお祝いにひとことご挨拶させていただきます。遠友塾20周年おめでとうござい

しよせんせいがた くろう どりよく たんじょう えんゆうじゅく おお ひと ひかり あた くだ
ます。諸先生方のご苦労とご努力で誕生した遠友塾は多くの人に光を与えて下さいまし

きょういくみりしゅうしゃ さいきょういくしゃ たくさん ひと まな きかい あた きぼう み せいかつ
た。教育未履修者、また再教育者、沢山の人が学ぶ機会が与えられ、希望に満ちた生活が

でき おも わたし ひとり まな い ちから よろこ まな
出来るようになったと思います。私もその一人です。学ぶことは生きる力、喜びです。学

ひと きずな どうと まな せんじつわたし おな ねんめ ほそおか
びのおかげで人の絆も貴さも学びました。先日私と同じ5年目のクラスメートの細岡の

さそ う い はな うた ひ
ぶさんのピアノコンサートにお誘いを受けて行ってまいりました。ランゲの「花の歌」を弾

すがた たいへんかんどういた ほそおか おもい びょうき わずら こういしょう
くお姿は大変感動致しました。細岡さんは重い病気を患い、後遺症もあるそうですが、

べんきょう がんば すがた あたま さ かんしゃ ことば わたし いのち かぎ
勉強とピアノを頑張っているお姿は、頭が下がります。感謝の言葉で、私は命のある限り

ひ くだ い わたし まわ もくひょう ひと たくさん
りピアノを弾いて下さいと言いました。私の周りには目標とする人たちが沢山います。

えんゆうじゅく であ おお とも ひと きずな たいせつ いのち かぎ まな つづ
遠友塾との出会いで、多くの友ができました。人の絆を大切に、命のある限り学び続け

おも えんゆうじゅく ともしび きょう ねん ねん いっせいき も つづ
ていこうと思います。遠友塾の灯が今日から30年へと、50年そして1世紀と燃え続けま

ねが きぼう たね つづ くだ せんせいがた みなさま こうりょうちゅうがっこう せんせいがた
すようお願い、希望の種をまき続けて下さい。先生方、スタッフの皆様、向陵中学校の先生方

ひとり ひとり ところ かんしゃ もう あ
お一人お一人に心から感謝を申し上げます。



みなさん、こんばんは。私もこのあい
さつで始めさせていただきたいとおも
います。まず初めに、今この遠友塾20年の集
いが出来ることに大きな喜びを感じてい
ます。私がここに来たのは2年前でした。
その時私は不登校生でした。私は中学

にほとんど通っていません。入学したものの、早い時期から始まったいじめによって、そ
こにすることが出来なくなりました。それでも形だけの卒業証書をもらったものの、そ
の後通信制の高校には行ったものの、やはり学校というものに通うことが出来ず、6年ほど
の間、私はずっと不登校を続けました。ただ形だけの卒業証書をもらただけの、そ
ういう何とも言えない立場で一人悶々としていました。すごく居心地の悪い期間でした。
卒業証書を頂いたものの中学には通っていないので、中学程度の学力があるかどうか
もわからず、次へ進む階段を見つけられないままでした。ある時ふと、母がここ遠友塾
の記事を新聞から見つけてきました。もうすぐ見学会が開かれる頃の記事でして、私にそ
れに行ってみないかと言ったのです。私はそれを読み迷いました。臆病風に吹かれてやめ
ようかと思ったこともありましたが、その時私はなぜかすぐに、行ってみると答えていた
のです。6年もそんな生活をしていたのに、何があったか分からないのですが、なぜか答え
ていました。見学会に来て、居心地の悪いのとは違う今までにないものを見たせいか、不思議
な感覚を味わって、そのまま私は遠友塾に入学し、そしてその年から学校にも通うよう

になりました。通信制の高校、週に2回くらいあるかないかの高校でしたが、今までずっと通えずにいたままでした。遠友塾に通うこの2年、今3年生になって、同じクラスに学ぶ人たちとの間にも交流が生まれてきました。そして言われるのです。昔のあなたは話しかけられなかったと。何が変わったのか、自分では分かりません。でも周囲の人たちが私は変わったと言って下さいます。話しかけられなかった人から、よく話す人になれた、それが今嬉しく、そうやって好意を向けて下さる方々の心を受け取ることができるようになった自分をとてもうれしいんです。その6年間、そしてその前の中学3年時代の私は、人に疑心暗鬼になり、人の目線を怖がり、どうしようもなく人の真意の底を探るような、そんな感じが自分でもとてもいやでした。でもそうせずにはいられなかったんです。それから来年には4年制の高校も卒業年度になります。今卒業に向けて頑張っています。こちらも今3年です。普通と言えばこのまま卒業ということになるんでしょう、この3年の間に受けた恩恵は計り知れないものがあると思います。この場所とこの場所が出会わせてくれた皆さんに、私は深く感謝の心を持ち、お礼を申し上げたく思います。みなさんありがとうございました。ご清聴ありがとうございました。

※ 「集い」の横断幕は、伏見さんの書であることの紹介あり。

さっぽろえんゆうじゅく そつぎょうせい こんどう あさこ
札幌遠友塾 卒業生 近藤 朝子

とうじつ こんどう けっせき くどうあけみ ぶんしょう きおく はつびょう
(当日、近藤さんは欠席のため、スタッフの工藤朱美さんが文章の記憶をたどって発表)

こんばんは、近藤朝子ではありません、工藤朱美です。近藤さんとはここ1ヵ月近く、あ

がり症なので何を話したらよいか分からないということだったので、メモに書いたものを

も 持ってきてください、そうしたらふたりで かんが 考えましょうねと、ふたり はな あ 二人で話し合いながら ぶんしょう 文章
をつく 作りしました。それが さっき はじ はじめ 始めるまえになつて ねつ で 熱が出てしまったということなので、私 が
きおく 記憶にあつてポイントをお 押さえているところがありますので、そういうところをお話 した
いとおも 思います。

こんどうあさこ 近藤朝子さんは、1936 (しょうわ 昭和11) ねん さい とき 年3歳の時におじさん一家と一緒 に パラオ に 移住しま
した。そのあと せんそう はげ 戦争が激しくなり、ほとんど 学校 には 行くことができず、竹やり 訓練 などに
か だ 駆り出されていたということです。後に 父親 は 結核 で 亡くなり、戦争 が 終わつて 1946年パ
さいご ひ あ せん きこく ほっかいどう す ラオから最後の引き上げ船で帰国し北海道に住みました。引き上げ船の中では、大事に大事
にしていた 教科書 を アメリカ兵 に 海 に 捨てられ、その 悲しい 思い出 は 今でも 忘れることがで
きない そうです。

ほっかいどう す 北海道に住んで、あた けんぽう もと 新しい憲法の下で、や っ と 教育 が 受けられると思つていたのですが、
さい さい いもうと 10歳と7歳の 妹 さんたちは、しょうがっこう にゅうがく 小学校に入学することが出来ましたが、近藤さんは母親の
て 手ひとつで、お母さんが 愚痴 も 言わずに 一人 で 働いていたものですから、お母さんのこと
を かんが 考へて、がっこう 学校に行きたいとは けつ い 決して 言えませんでした。そして ちか 近くのアイスクリーム
こうじょう 工場でアイスクリームのカップを作る仕事をしていたということです。アイスクリームは
た 食べたことはないと言つていました。その後ずっと 働 き 続けたあと、縁 がありまして、23
さい けっこん いちなんいちじょ こ 歳で結婚。一男一女の子どもさんに 恵 ま れ ました。

こ やつと子どもさんが せいちょう 成長して 時間 が とれて、えんゆうじゅく かよ はじ 遠友塾に通い始めて、漢字を学び、パラオ
の 位置 を 地図 で 初めて たしかめることが出来た そうです。その時に 夫 が 肺がん になり、途中
えんゆうじゅく いちどたいじゅく おつと な 遠友塾を一度退塾しました。夫 が 亡くなつてから 再度 遠友塾 に 来られました。そして
ねん 3年そのあと 2年かかって 卒 業 されました。国語の授業で 向田邦子の「ごはん」という

エッセーを^よ読んで、^{はじめ}初めて、その^{よはく}プリントの^{じぶん}余白に^{ことば}自分の^{せんそう}言葉で、^{けつ}戦争は^{ひと}決して^{しあわ}人を^な幸せ
には^{でき}出来ない^かと^{すば}書きました。も^{ことば}っと^な素晴らしい^{ないよう}言葉^だだった^んですが^が・・・、^なそういう^{ないよう}内容^だだ
った^んですが、^{ひょうげん}表現^はと^ごとても^{ごんどう}すば^{つうしんせい}ら^{ゆうほうこうこう}しか^たった^んです。その^{のち}後^{近藤}近藤^{さん}さんは^{通信}通信^制の^{有朋}有朋^{高校}高校^にに
^{にゅうがく}入学^{します}。入^{にゅうがく}学^{する}か^{まよ}どう^かず^つと^{まよ}迷^つって^いる^{とき}に、^{ある}ある^日日^夢夢^{の中}の中^にに^おお^母母^{さん}さん^がが^現現^れれ
「朝^{あさこ}子^{べんきょう}、勉^ぜ強^{たい}し^なさい。絶^ぜ対^{たい}学^が校^がに^い行^いき^なさい」と^{ことば}言^かった^{さう}さう^{です}。その^{ことば}言^か言葉^は、^おお^母母^{さん}さん
が^{さい} 92^な歳^{まで}で^お亡^{つづ}くなる^{まで}まで、^おず^つと^お思^もい^{つづ}け^てい^た言^{ことば}言葉^だと^お思^もっ^てい^るさう^{です}。その^{ことば}言^か言葉^の
お^{かげ}かげ^で高^{こう}校^いに^{けっ}行^けく^い決^い心^まが^つき^まし^た。今^{いま}は^{なん}と^か頑^{がん}張^ばつ^て有^{ゆう}朋^{こう}高^{こう}校^をを^{そつぎょう}卒^な業^{して}、^亡亡^き
お^かお^母母^{さん}さん^と夫^{おとと}に、^{そつぎょう}卒^{しゅう}業^{しゅう}証^{しよ}書^みを^み見^せ、^うう^れい^しい^{ほう}報^{こく}告^をを^した^いと^{ねが}願^って^いま^す。こ^のよ^うな
内^{ない}容^{よう}で^した。

※ 後^ご日^{じつ}、近^{こん}藤^{どう}朝^{あさこ}子^{さん}さん^{から}から^{はっぴよう}発^{げんこう}表^をし^{よう}と^{した}原^{げんこう}稿^をを^いた^だき^まし^たた^{ので}で^掲掲^げ載^しま^す。

第^だ一^い次^ち大^{だい}戦^{せん}後^ご、日^に本^{ほん}の^い委^い任^{にん}統^{とう}治^ち領^{りやう}に^なな^{った}熱^ね帯^{たい}の^{しま}島^を島^をパ^{ねん}ラ^{わた}オ^し。1936^{ねん}年^は、私^{わたし}は^{ほっかい}北^{かい}海^{どう}道^をを^離離^れ
パ^らオ^島島^にに^いじ^{ゆう}移^し住^まし^た。ま^だ3^{さい}歳^の時^{とき}で、母^は母^親親^の伯^お父^おさん^一一^家家^とと^{いっ}っ^かい^っし^ょで^した。小^{しょう}学^が校^{こう}4^{ねん}年^{せい}生^の時^{とき}、太^{たい}平^{へい}洋^{よう}戦^{せん}争^{そう}が^は始^はま^り、空^{くう}襲^{しゅう}で^{こう}校^{しゃ}舎^{ぜん}が^か全^{ぜん}壊^{かい}し^まし^た。授^{じゅ}業^{ぎょう}は^なく^なり、月^{つき}明^あり
の^{もと}下^{こう}で^{てい}手^{しゅ}榴^{りゅう}弾^{だん}投^なげ^や薙^{なぎ}刀^な訓^く練^{れん}を^しま^した。行^いき^たか^つた^女女^学校^もも^壊壊^され^まし^た。
そ^れれ^ども「い^つか^{べん}勉^き強^ひで^きる^日日^が来^くる」と^お思^{おも}い、兄^あ姉^{にあ}が^{つか}使^{つか}った^お古^{ふる}の^{きょう}教^か科^{しよ}書^をを^{たい}切^{せつ}に^も持^もっ^て
て^いま^した^が、1944^{ねん}年^にに^{ちち}父^{おや}親^はが^{はい}肺^け結^{かく}核^{しぼ}で^{しゅう}死^{せん}亡^ご。終^{しん}戦^{せき}後^た、親^{かえ}戚^をを^頼頼^って^{かえ}帰^ひっ^てき^まし^た。引^ひ
き^あげ^せん^の船^のに^{とき}乗^{べい}る^{へい}時^{けん}に^{もん}米^き兵^{きょう}の^か検^と問^あで^め教^ま科^え書^うは^な取^なり^す上^すげ^られ^られ^し
た。船^ふに^の乗^とっ^て十^に日^{ほん}く^らい^で日^つ本^にに^ふ着^ぼき^まし^た。父^ふ母^ふの^{ふる}古^{さと}里^くで^は暮^はら^し始^{さい}め^て、10^{さい}歳^とと⁷歳^{さい}
の^い妹^{もうと}は^しそ^ろろ^って^{しょう}小^が学^{こう}校¹年^{ねん}生^{せい}に^なり^まし^たが、母^ぼ子^{しか}家^{てい}庭^{めい}5^い名^いが^さ生^{さい}きる^ため^に、13^{さい}歳^の私^{わたし}

はアイスクリームのカップ^{せいぞうこうじょう はたら}製造工場で働きました。

「学校に行きたい」と口に出せなかったのは、愚痴一つ言わず働く母を見習ったから
です。辛い事は呑み込んで働き続けました。1947年、教育の機会均等を定めた「教育
基本法」と「教育を受ける権利」を記した憲法が施行されました。中学3年の年齢だっ
た私に就学通知は届かなかったのです。

戦争と戦後民主主義のはざままで学ぶ機会は失われてしまいました。でも私の母は強い
人で、私に4年間も編物、洋裁、和裁を習わせてくれたのです。23歳で結婚、一男一女の
母になり、子供の衣服は中学生まで私がつくりました。漢字が書けないので書類や手紙
はすべて夫が代筆しました。字を書くことの大切さを、今頃気付いています。

90年北海道新聞に遠友塾の記事が載っていました。私もその時の新聞をいまでも持つ
ています。それは何か学校に行く事が出来るような気持ちがしたのです。98年に私も
遠友塾に入れていただき一筋の道が開けたのです。遠友塾で英語でABCと教えて頂い
た時は、今までの苦労が飛んでいきました。翌年夫が病気になり、通学を断念しました。

2004年再入学し、字を習い、歴史を学び、世界地図でパラオ島の位置がわかりました。学
ぶことは刺激的です。国語で向田くに子さんの「ごはん」の余白にこう書きました。「戦争
は大勢の人の人生を踏みにじり、家族に悲しみをもたらすもの」初めての自分の言葉でし
た。04年再入学したとき私は70歳になり、毎週夜2時間、札幌遠友塾自主夜間中学校
に5年間通い、昨年春楽しかった遠友塾を卒業しました。

戦争で学習意欲を阻害されましたが、ようやく高校生活に辿り着き、入学式では感動
しました。入学を勧めて下さった先生方には感謝いたします。私が有朋高校に行くか行

かな^いか迷^ってい^る時[、]朝^方6時頃^{に、}私^の枕^元に92歳^で亡^くな^った母^親が現^{れ、}
 「朝^子、学^校に行^きな^さい」と一^言話^して消^えた^のです。母^親の思^いを抱^{き、}頑^張っ^て卒^業
 証^書を亡^き母^と夫^に報^告し^たい^と思^ってい^ます。北^海道^に帰^って64年^が過^{ぎ、}私^も76
 歳^にな^りま^した。夢^見る夢^子さん^も終^わり^です。本^当に^お世^話に^なり^まし^た。

さつぼろえんゆうじゅく そつぎょうせい やまもと たかこ
 札幌遠友塾 卒業生 山本 孝子



みなさんこんばんは。平成17(2008)年
 度卒業生の山本孝子です。私は昭和12
 (1937)年に6年生を卒業してから親と
 一^諸に、満^州の開^拓団^に行^きま^した。そ
 れは山^奥の開^拓団^で15~20年^まで^は作^物
 もと^れて、大^変裕^福な生^活を^して^おり^ま

した。ど^こに戦^争が^ある^のか分^らな^いよ^うな生^活で^した。そ^れか^ら20年⁸月[、]避^難せ
 よ^とい^う通^知が^きま^した^ので、そ^れか^ら着^の身^着の^まま20日^{間、}川^を渡^{り、}山^の中^を逃^げ
 て歩^きま^した。年^寄り^の人^は毎^晩夜^にな^ったら、ど^こに^行った^のか^いなく、だ^んだ^ん少^な
 く^なっ^てい^きま^して、小^さい子^{ども}は歩^けなく、食^べ物^がな^いの^{で、}道^端に^ごろ^ごろ^と生
 き^たま^ま投^げて、捨^てて^あり^まし^た。そ^れか^ら20日^間歩^{いた}ある^{日、}ソ^連の兵^隊が山^に上
 が^って^きて、ソ^連の捕^虜に^なっ^{て、}収^容所^に入^れら^れま^した。そ^れか^{ら、}ひ^と冬[、]食^べ
 る^もの^がなく、寒^{く、}発^疹チ^フス^が始^まっ^{て、}も^う何^千人^とい^う人^がぼ^ろぼ^ろと^亡く^なっ
 て^いき^まし^た。そ^の頃^のこ^{と、}今^でも^まだ^思い^が残^って^おり^ます。そ^れか^{ら、}私^の両^親

と妹、弟と亡くなりまして、私は中国人のお世話になって、貧しい田舎でしたので、
字を書くとか、本を読むとか、そういう暇など一切なく、苦しい生活の中、8人の子ども
を育てて、貧乏で子どもたちは小学校しか入れておりません。一番上の娘は4年生から
子守りをしていただき、私が働くので子守りさせ、4年生しか行っていません。それか
ら子どももだんだん大きくなり昭和56（1981）年に日本と中国の国交回復で、日本に帰
って来ることができました。56年帰ってきたときは、私はもう54歳でした。それでも働
かなくては食べていけないので、市民生協の中に靴修理の仕事でテナントとして入れて
もらって一生懸命働きました。それで子どもを一人一人こっちに、日本に呼んだりして、
今はみんな日本におりますが、長女と次女が遠友塾のお世話になって、学校に入って、
字を書いてきてから、いろいろ話を聞いて、お母さんも行ったらいいんじゃないと言う
ので、私はもうすることもなし、家にひとりだけでいてもつまらないので、塾に子どもが
申し込んでくれて、塾に入りました。そしていろいろ不安もありました。字も読めない
し、算数なんかどうしようかと不安でした。先生方が一生懸命教えていただくので、字は
ひとつひとつ覚えた時の喜びとか、字が読めるようになった時の喜びとか、歴史とか昔
を思い出しながら聞いておりました。算数も先生方が教えてくださいました。とても楽し
い学校生活でした。それから平成17年に卒業いたしまして、それからひとり家にいるの
が、とても寂しい。今でも寂しいです。これからも塾に入れてくれるなら、今年82歳に
なりましたけれど、もう一度勉強したいと思います。学校へ来たら、先生方のやさしいの
と、みんなの笑顔、とても楽しい思い出のある勉強でした。これからもお友達とか子ど
もたちとかみんなに紹介して、こういう学校があると紹介して、たくさんの人に入って

いただきたいと話し努力いたします。口べたですみません。

司会 山本さんは現在1年クラスに通っております、高島秀子さんのお母さんでもあります。

司会 じっくりクラスの伊藤さんは、じっくりクラスチーフの横山さんと掛け合いでやってみようことになっていますので、よろしく願いいたします。

札幌遠友塾 じっくりクラス 伊藤 フサ子



▲ 発表する伊藤さん（右）と横山さん

伊藤 こんにちは。私はじっくりクラスの伊藤フサ子です。よろしく願いいたします。

横山 同じくじっくりクラスのスタッフの横山です。これから漫才をするわけではなく、

伊藤フサ子さんは、本当は自分一人で十分話せますし、話も上手なんですけれど、

ちょっと準備する時間がたりませんでした。自分史を書いたんですが、とても長すぎ

てそのままでは発表できないので、今日は20年の特別サービスということで、私が

インタビューという形式でお話を伺いたと思います。では早速よろしいでしょうか、ちょっと緊張しています。

フサ子さんが遠友塾に入学したのは2000年ですね。2000年に入学してもう10年目になるんですけども、フサ子さんの子ども時代は、今よりもっと障がいをもっていらっしゃる方に対する差別が強かったと思いますし、就学免除や就学猶予というものもあって学校に行っていない障がい者の方も多かったと思いますが、フサ子さんも一度も学校には行ってませんよね。子ども時代のことをちょっと話していただけますか。

伊藤 わたし ちい ときで ある おや いっしょうけんめいがん
私は小さい時出て歩くこともできなくて、親が一生懸命願をかけてくれて、ようやく少し歩けるようになったんです。弟が学校に行くようになって、私はどうして学校に行けないのかなと思って。障がい者だから行けないのかなと思って。親によく言ったのね。「なんで学校に行けないの？」って。でも母さんは何も言わない。弟が行って、私が行けないことがすごく悔しいの。勉強したくても、学校に行きたいと思ってもどうしようもない。でも行けないということは悔しい。弟は給食のパンを持ってきて、自分で食べないで私にくれる。学校に行ったら給食でるんだなって。私もそういう所に行って、代わりに弟に食べさせてあげたい。でもそういうことができない。学校に行きたくて、行きたくて、どうしようもなく。でもいくら母さんに言ってもどうしようもなく。ある年齢になったら親にはこれ以上言えないと思って、言わないようにしたのね。表に出たらいじめられるし、ばかにされるし、お前なんかなくていいと隣近所に言われていたんですよ。だからあまり表に出ることはなかったです。

よこやま くる こ じだい がっこう い じ か え み
横山 苦しい子ども時代だったんですね。学校へ行けなくて、字が書けなくて、絵を見て

ずっと生活してきたと聞きましたが、学校へ行けなかったことで苦しかったことはど
んなことですか？

いとう なに わ じ なん なん
伊藤 いっぱいあって、何も分からなかった、字っていうのはね。これは何だろうな、何
だろうと分からなくて。母さんに、絵で見なさいって言われたのね。字を見なくても
いい、絵を見なさいって。少し少し分かるようになるかもしれないよって。でも絵を
見ても分からないの、すごくあって。どうしてこう字って難しいのかなって。ひ
らがな、カタカナもほとんど読めないからね。自分は駄目なのかなって思っ
て。悔しいのと、そんな自分がなんか嫌だなど思っ
て…。

よこやま こ ねん えんゆうじゅく べんきょう はじ
横山 そんなフサ子さんが2000年に遠友塾について勉強を始めました。

その時はどんな気持ちでしたか？

いとう うれ わたし しょう しゃ おも い
伊藤 とても嬉しかったです。私みたいな障がい者はいるのかなって思ったの。でも行
かないとよくないし、勉強も覚えたいし。行ったら皆に迷惑かけるのかなとか不安で。
でも、とりあえず行って、勉強というか、そういう所に行ってみたいなと思っ
て行ったんです。

よこやま ねんかんかよ なか おも とちゅう
横山 9年間通う中でいろんなことがあったと思うんですけど、途中でくじけそうにな
ったことはありませんでしたか？

いとう なんかい なんかい べんきょう わ き
伊藤 ありました。何回も、何回も。勉強が分からなくて、ちょっと聞くわけにもいか
ないし、ついていられないのね。皆さんが早いから、覚えるのがね。私はほとんど
べんきょう ほんとう ほんとう たいへん がっこう
勉強というものをしたことがないから、本当に本当に大変で。あ～学校やめようか
な、学校はもういいかな、こんなにやっても自分には向かないのかなと思っ
て。勉強はしたい。でもできない。でもやっぱりしたい。親が倒れて、母さんの面倒みなきや

いけないし、その合間^{あいま}でやってるから、なかなか勉強^{べんきょう}に集中^{しゅうちゅう}できないし。でも頑張^{がんば}ってきました。

よこやま 横山 やめないで続け^{つづ}てきたのは、何か目標^{なにもくひょう}があったからでしょうか？

いとう 伊藤 自分の名前^{じぶん なまえ}と住所^{じゅうしょ}を書きたくて。今は住所^{いま じゅうしょ}と名前^{なまえ}が書けるようになって、とてもうれ^{うれ}しいです。

よこやま 横山 フサ子^こさんと国語^{こくご}の勉強^{べんきょう}一緒^{いっしょ}にしてたんですけど、その中^{なか}で谷川俊太郎^{たにかわしゅんたろう}さんの「生きる^{いきる}」という詩^しを一緒^{いっしょ}に読んだんです。生きて^いいること、今生^{いま}生きて^いいること、フサ子^こさんにとって今^{いま}生きて^いいるといちばん実感^{じっかん}するのはどんな時^{とき}か書いて^かもらいました。ちょっと読^よみますね。「えんゆうじゅくのかえりみち、そらをみあげると星^{ほし}がかがやいて^いいる。いちばんひかっている星^{ほし}は母^{かあ}さん。母^{かあ}さんに『きょうもいっしょうけんめいべんきょうしてきたよ』とほうこくする時^{とき}がとてもしあわせ。生きて^いいてよかったとおも^かう」と書いて^かくれました。

字^じが書^かけるようになって生活^{せいかつ}の中^{なか}で何か変^なわったこと^かはありますか？

いとう 伊藤 役所^{やくしょ}に行^いったり、銀行^{ぎんこう}でお金^{かね}おろす時^{とき}とか、自分^{じぶん}の名前^{なまえ}や住所^{じゅうしょ}を自分^{じぶん}で書^かいてと言^いわれたけれど、「書^かけないから、書^かいて」と言^いっても、書^かいてくれる人^{ひと}と書^かいてくれな^いい人^{ひと}がいるから…。悔^{くや}しくて。でも今^{いま}書^かけるようにな^なったし、とてもうれ^{うれ}しいです。

よこやま 横山 さきほど伏見^{ふしみ}さんからも話^{はなし}がで^でていましたが、それまでフサ子^こさんも自分^{じぶん}のことはほとんど話^{はな}されな^なかったですよね。スタッフ^{はじ}を始め^た、他^{ひと}の人^{ひと}に自分^{じぶん}の心^{こころ}の内^{うち}をあま^あり見^みせな^なかったフサ子^こさんが、おとし辛^{つら}い自分^{じぶん}の過^か去^{かた}を語^{かた}って自分^{じぶん}史^しを書^かきましたよね。自分^{じぶん}史^しを書^かこうと思^{おも}ったのはどんなきっかけ、なぜ^{なぜ}ですか？

いとう 伊藤 やっぱり自分^{じぶん}を分^わかってほ^ほしい、私^{わたし}みたい^{ひと}な人^{ひと}がいることも分^わかってほ^ほしいと思^{おも}っ

は 恥ずかしいって言ってたら何もできないし、自分を変えていかなきゃと思って。

よこやま いま ふ さ こ い がつき こくご べんきょう
横山 今フサ子さんは言わなかったんですけど、おととしの2学期、これから国語の勉強

なに ふたり そうだん とき ほっかいどう やかんちゅうがく かい かつぱつ
何しようか二人で相談している時、ちょうど「北海道に夜間中学をつくる会」が活発

かつどう はじ きょういくいいんかい きょうしつかくほ こうしょう とき
に活動を始めて、教育委員会と教室確保のことで交渉している時だったんですが、

わたし ひと し べんきょう べんきょう
私のような人がいることをぜひ知ってもらいたい。まだまだ勉強したくても勉強

ひと たくさん じぶん ひと なに
できない人が沢山いるから、自分もその人たちのために何かできることをしたい。

きょういくいいんかい ひと こうしょう とき じぶん さくぶん か だれ よ
教育委員会の人と交渉する時に、自分が作文書いて、それを誰かに読んでもらって

い はなしはじ すう じぶん し
と言って話始めたら、だ〜と50数ページにわたる自分史になったんです。

つら か こ おも だ ぶんしょう さぎょう ほんとう たいへん おも
辛い過去を思い出しながら文章にする作業は、本当に大変だったと思うんですが、

じぶん し か なに か
自分史を書いたことで、何か変わったことはありますか？

いとう あか い こえ か
伊藤 みんなから明るくなったし、すばらしいと言われて。みんなから声掛けられるのがい

うれ か おも
ちばん嬉しい。書いてよかったと思って。

よこやま さくぶん はっぴょうかい
横山 ちょうどその作文の発表会をじっくりクラスでしたんですけど、たまたま NHK

しゅざい き ぼめん うつ ご かた てがみ
が取材に来て、その場面が映されて。その後いろんな方から、お手紙をいただいたり、

はんきょう じぶん し か こ じぶんじしん
すごい反響ありましたよね。自分史を書いたことは、フサ子さんにとって自分自身を

み つぎ すす おお ちから おも さくぶん い
見つめ、次に進む大きな力になったと思います。作文のタイトルは「生きてきてよ

かった」ですが、作文には今苦しみを抱えている仲間へのメッセージがいっぱい込め

き つた
られている気がします。どんなことをいちばん伝えたいですか？

いとう い わたし いま しあわ おも ひ わたし なんかい なんかい し
伊藤 生きていれば、私みたいに今いちばん幸せと思える日がくる。私も何回も何回も死

おも い おもに いや かあ
のうと思ったのね。生きていてもしょうがないし、みんなの重荷になるのは嫌だし。母

さんの一言、「お前が死んだら母さん困る」って言われて、それからは死なないで母さんの分まで長生きしようと思ってがんばってきました。苦しんでいる人たちにわかってほしい。そういう人たちに伝えてあげたいと思う。絶対に死んじゃいけないし、絶対いいこと来るから。

横山 苦しみを乗り越えてきた人だから伝えられるメッセージがあると思うし、フサ子さん始め、夜間中学で学ぶ人たちはそれを伝える力があるんじゃないかなと思います。最後にこれからどんな勉強がしたいですか？夢とか目標あったら聞かせてください。

伊藤 これから漢字を覚えたい。ひらがな、カタカナしか分からないので、少しずつ、覚えてがんばります。

横山 漢字を覚えて書きたいことがあるって言ってましたよね。

伊藤 今度は弟の作文を書きたいと思って。あと母さんのことも少し少し書いていきたいと思って。だからこれからもがんばります。

横山 次は弟さんと、お母さんの作文を書くそうなので、今度それを発表しますね。みなさん、お楽しみにしてください。



こんばんは、^{やまかわのぶこ もう わたし}山川允子と申します。私は
^{ねんせい ことし ねんめ きせい}3年生で、今年で5年目です、16期生で、
^{う しょうわ ねん う}生まれは昭和18（1943）年生まれです。生
^{おおふぶき まえ み}まれるときは大吹雪で前も見えないので
^{あさ ま い}「朝まで待て」と言われたそうです。その

^{わたし さい びょうき わ ゆ い}私が2～3歳のとき、「はしか」という病気がうつっていたのに分からず、もらい湯に行き、
^{しず にい とう ふたり いしゃ}そこで沈んでしまったのです。あわてて兄さんと父さんと二人でお医者さんをつれてきて、
^{いき はじ い まえ}ようやく息をふきかえしたそうです。初めは生きかえってホッとしたんですが、前とぜんぜん
^{たましい そだ わ}ちがってボーッとして、魂がぬけたようになったので、どう育ててよいか分からなくな
^{はなし はなし しごと}ったようです。いつまでも話をしないし、話をしてもかえってこないし、仕事もとろくさ
^{ちち はら ぼうりょく わたし がっこう い せんせい い}いので、父は腹がたつと暴力をふるうようになりました。私は学校へ行っても先生の言う
^{わ べんきょう えんゆうじゅく はい せんせい}ことが分からないので、勉強はぜんぜんできませんでした。遠友塾へ入ってみて先生やス
^{ひと ねっしん わたし おし ほんとう こくご}タッフの人たちが熱心に私たちに教えてくださり、本当にありがとうございます。国語の
^{だざいおさむ はし かねこ す}太宰治の『走れメロス』や金子みすゞさんのうた、あのちょっと好きなうたあるんですけ
^{べんてんじま はくしゅ}れど、いいでしょうか。『弁天島』という「うた」です。（拍手）

^{べんてんじま かねこ}
弁天島 金子みすゞ

「あまりかわいい島だから

ここには惜しい島だから、

もら 貰っていくよ綱つけて」

きた くに ふなのり
北の国の船乗りが、

ある日、笑っていいました。

うそだ、うそだと思っても、

夜が暗うて、気になって、

朝はお胸もどきどきと、

駆けて浜辺へゆきました。

弁天島は波のうへ、

金のひかりにつつまれて、

もとの緑でありました。

こういううたです。それと、数学の正負の意味、黒字と赤字ということが分かったこと、

英語の「私の一日」 I eat fish and miso-soup for lunch. (私はお昼にお魚とミソ汁を

のみます。)などがわかったこと。社会、人が生きていくために食べ物、植物と動物、住む

のに木材、洋服にせんい、植物、があるのを知りました。

それからへたですが、詩をよろしいでしょうか。(拍手)

おどけ ようせい

どんなときも たえてがんばる 心

どんなときも 人を大切にする すなおな 心

どんなことも 真っすぐで明るい 心

私の願いをきいてくれたなら

あなたのねがいを かなえてあげる

さあ ^{きみ}君のぼんだ

^{こころ}心のキズ

よ ^{なか}世の中で ^{きず}きずつき ^{なやみ}なやみ ^{くる}苦しんだ

そのすべてをおしながし

^{きよ} ^{みず}清い水として ^{こころ} ^{なが}心に流れる

^{えんゆうじゆく} ^{ちから}遠友塾のそこ力

^{こころ} ^{みず}心の水のすがすがしさよ

ひとみ

あなたのおくに ^{ひかり}のぞいた光

^{ひかり} ^{なか}その光の中に ^{みち}ひとすじの道がある

じゅんすいで ^{ごころ}けだかき心

^{こころ}その心にふれたしゅんかん

はじける しあわせ

^{むだい}無題

^{くどうせんせい} ^{ちい} ^{こいし} ^{かわ} ^{おと} ^み工藤先生の小さな小石を川にポチャンと落してそれを見たら

それはだんだん^{おお}大きくなりました

あなたのなげた^{ちい} ^{いし} ^{はもん} ^{ひろ}小さな石が波紋として広がる

なんだかそれは、みんな^て手をつないでいるようだ

^{おお} ^{おお}大きく 大きくなあれ



みなさん、おばんでございます。遠友塾
20周年記念おめでとうございます。私が
この釧路の「くるかい」で学ぶきっかけに
なったのは、早い話が、字が読めない。そ
して、今の流行り言葉で言えば「読めない
(KY)」という意味もあって、学ぶことに

なったんですけれど、幼いころ、字が読めないもんだから、何やるんでも、ひとつ行動と
るんでも、いろいろ話せば長くなるんですけれど、いろいろ問題がありました。そしてやは
り、いじめもありました。そしていろんな言えないこともありました。でも釧路の「くるか
い」で学ぶようになって、まだ1年も経ってないですが。まだ今年の5月からかな、始まっ
たのが。そこで今、一生懸命今2年生の勉強してるんですけれど、すこしずつ1日1時間
ずつでもいいから、勉強してるんですけれど、なかなか覚えられません。すぐ、なんてい
うのか、ひとつひとつ文字書いていくんですけど、なかなか進みません、前に。釧路の場合
は、ボランティアの先生が一对一でついていろいろ教えてくれるんですけれど、それもいろ
いろ問題あるんですよ。この間はこの先生だったけど、今回はまたこの先生。先生によ
ってやりたいことが全然伝わらないのか、自分の伝え方が下手なのか、なかなか思うように
行かないんですよ。なんとか先生とうまくやろうと思うんですけれど、なかなかうまくいか
ないんですよ。これどういう具合に説明していいもんか、ちょっとぼくにもわかんないんで
すけれど、口で言っているものなのか、ちょっとそのへんが難しいところなんですけれ

ど……。いろいろ難^{むずか}しいなあ、と思いながら今^{おも}小学校^{いましょうがっこう}2年生、3年生の国語^{ねんせい}を一生懸命^{ねんせい} ^{こくご} ^{いっしょうけんめい}
一つ一つ書いています。とにかく、まず書くことが一番先決^{いちばんせんけつ}なので、書いて字^かを覚えて、そ
れでなければ数学^{すうがく}にもいけないし、問題集^{もんだいしゅう}も読め^よないだろうし、ましてほかの教科^{きょうか}もすす
め^よないだろうし、とにかくまず読むこと^{いっしょうけんめい}から一生懸命^{いま}今^よやっています。やってるつもりなん
ですけど、なかなか覚え^{おぼ}られ^{しょうじき}ません。それが正直^{きもち}な気持ち^{はなし}なんですけど。それともう話
変わ^かりますけれど、釧路^{くしろ}の「くるかい」が来年^{らいねん}の春^{はる}で、1年^{ねん}になるんですけれど、会場^{かいじょう}が
なかなか決^きまらなくて、いまだに来年^{らいねん}の会場^{かいじょう}が決^きまってない、どこでしたらいいものか、
また我々^{われわれ}もこのまんま学^{まな}んでいけるのか、まあ大丈夫^{だいじょうぶ}だとは思^{おも}いますが、そういうことがい
ろいろありまして、なかなかスタッフ^{はなし}とうまく話^{はなし}もできて^{はなし}るんだかできて^{はなし}ないのか、この
間^{あいだ}ちらっとも話^{はなし}したんですけれど、「後藤^{ごとう}さん、どういうところが一番^{いちばん}、何か気付^{なに}いたこと
あります^{きづ}か」と言うので、「気付^いいたところ^{きづ}と言えば、先生^{せんせい}がしょっちゅう変わ^かって、とに
かく自分^{じぶん}のやりたいこと^{ぜんぜん}が全然^{ちが}うんですよね。そして自分^{じぶん}の思^{おも}っていること^{まる}まるつきり、
なにか正^{せい}反対^{はんたい}のことが伝^{つた}わ^{せんせい}っちゃって、なかなかうまくい^{せんせい}かない。だから先生^{せんせい}方^{がた}にもよるん
だけれど、札幌^{さっぽろ}あたりから今^{いま}話^{はなし}聞^きいたら、ずいぶんみなさん大^{おお}がかりでや^{おも}ってるなあと思^{おも}
ながら、話^{はなし}しを聞^きいてた。釧路^{くしろ}のやり方^{かた}がいいのか、札幌^{さっぽろ}のやり方^{かた}がいいのか、僕^{ぼく}にはちょ
っとわからないですけど、やっぱり僕^{ぼく}にしてみたら一^{たい}対^{たい}一^{たい}でや^{たい}って、自分^{じぶん}の希^き望^{ぼう}する教^{きょう}育^{いく}と
いうか、そういう教^{きょう}科^かを受け^うたいな、釧路^{くしろ}でや^{いちばん}っているのが一番^{おも}いいなあと思^{おも}って聞^きいてい
ました、自分^{じぶん}では。みなさんいろいろあるだろうと思^{おも}います。私^{わたし}は釧路^{くしろ}でや^{はなし}っているのが
一番^{いちばん}いいのかな、自分^{じぶん}にとっては一番^{いちばん}覚え^{おぼ}やすいし、その中^{なか}に入^{はい}りやすいし。そういうこと
で釧路^{くしろ}の場合は卒^{そつ}業^{ぎょう}というの^{そつぎょう}はないですから、一^{いち}応^{おう}1年^{ねん}経^たったら修^{しゅう}了^{りょう}証^{しょう}明^{めい}書^{しょ}み^{たい}な^いなも

のをもら^{はなし}える話をして^{らいねん はる}ましたけれど。これも来年の春^わになつてみなきや分^わからないですけれど、一^{いちおう}応^{なんまい}それまで何枚^{いま}もら^{ねんせい}えるか、また^{しょうがっこう}今の2年生^{ねんせい}から小学校^いの5年生^いくらい行けるもの^なのか。これから挑^{ちょうせん}戦^{おも}したいと思^{おも}います。

さっぽろえんゆうじゅく スタッフ いとう さとこ
札幌遠友塾 スタッフ 伊藤 郷子



こんばんは。今^{いまげんざい こく ごか}現在^{たんとうしや}国語科^いの担^い当^{べんきよう}者^{そつぎようせい}として

ご一^{いっしょ}緒^{べんきよう}にお勉^{そつぎようせい}強^いして^いいます。卒^{そつぎようせい}業^い生^いのみ^いな

さん本^{ほんとう}当^{ひさ}にお久^{ほんとう}し^いぶ^いり^いで^いご^いざ^いい^います。本^{ほんとう}当^い

今日^{きょう}は^う嬉^{おも}しく^い思^いっ^いて^いま^いす。

今日^{きょう}は、私^{わたし}が^{くわ}こ^{くわ}こ^{くわ}に^{くわ}加^{くわ}わ^{くわ}っ^{くわ}て^{くわ}か^{くわ}ら^{くわ}特^{とく}にお

世^せ話^わにな^{かた}つ^{かた}た^{かた}方^{かた}の^{かた}こ^{かた}と^{かた}に^{かた}つ^{かた}て^{かた}ち^{かた}よ^{かた}つ^{かた}と^{かた}ふ^{かた}れ

たいと思^{おも}います。開^{かいこう}校^{いらい}以^{ねんま}来^え6年^{すうがく}前^いま^いで^い数^{じゆぎよう}学^{ねんま}の^いチ^いーフ^いと^いして^い授^い業^いを^いし^いて^いま^いし^いて、4年^{ねんま}前^いに

故^こ郷^{ききやう}の^い大^い阪^いの^い堺^い市^いに^い戻^いっ^いて^い行^いき^いま^いし^いた^い徳^{とく}永^な知^ち勢^{せい}先^{せん}生^{せい}で^いす。15期^{きせいいぜん}生^い以^い前^いの^いみ^いな^いさ^いん^いは^いき^いつ^いと、

覚^{おぼ}えて^いら^いっ^いし^いゃ^いる^いと^い思^{おも}い^いま^いす^いが、今^{ききやう}日^{しき}の^{たの}20周^い年^いの^い式^いも^いと^いつ^いて^いも^い楽^いし^いみ^いに^いし^いて^いま^いし^いて、

絶^{ぜつ}対^{たい}に^い行^いき^いた^いい、行^いき^いた^いい^いと^い言^いつ^いて^いい^いた^いの^いで^いす^いが、不^ふ都^つ合^{ごう}が^い生^いじ^いた^いよ^いう^いで、残^{ざん}念^{ねん}が^いつ^いて^いい

ま^いし^いた。私^{わたし}は^い最^{さい}初^{しよ}の^{ねんかん}7年^{すうがく}間^{たんとう}は^い数^{とく}学^な担^ち当^{せんせい}だ^いつ^いた^いん^いで^いす^いけ^いれ^いど^いも、徳^{とく}永^な先^{せん}生^{せい}に^いは^いろ^いろ^いと^い鍛^{きた}え

ら^いれ、い^いろ^いろ^いの^い教^{おし}え^いら^いれ^いま^いし^いた。数^{すうがく}学^いが^い苦^に手^がだ^{かた}と^いう^い方^いに^いと^いつ^いて^いは、き^{すうがく}つ^いと^い数^い学^いと^い言^いう^いの^いは、

数^{すうじ}字^いを^い操^い作^いす^いる^いだ^いけ^いの、つ^いま^いり、計^{けい}算^いと^いう^い何^{なに}か^いそ^いう^いい^い味^あ気^{じけ}な^いい^いも^いの^いだ^いと^いう^いイ^いメ^いー^いジ^いが

あ^いる^いか^いら^いな^いの^いで^いな^いい^いか^いと^い私^{わたし}は^いそ^いう^い思^{おも}う^いの^いで^いす。で^いも「数^{すうがく}学^いと^いう^いの^いは、文^{ぶん}化^かな^いの^いよ」と^い徳^{とく}永^な

先^{せんせい}生^{せい}は^い常^{つねづね}々^いそ^いう^い言^いつ^いて^いい^いま^いし^いた。そ^いの^い言^い葉^い通^いり^いで^いす^いね、日^に常^{ちやう}生^{せい}活^{かつ}や^い歴^れ史^しに^い根^ね差^ざし^いた^い面^{おも}白^{しろ}い

はなし とくながせんせい じゅぎょう もり こ すうがくきら ひと すうがく たい
話がたくさん徳永先生の授業には盛り込まれていまして、数学嫌いの人も、数学に対する
イメージというものをがらっと変えるような、本当に血の通った授業、私はそういう感想
も 持っています。私 も徳永さんみたいに血の通った授業をしていきたいなと思いつつながら、
じゅんび ところ
準備をして心がけていたつもりなのですが。

とき わたし か ざん ひょう み すうじ よ かた
ある時、私も掛け算の九九表を見まして、一つの数字でもいろんな読み方があるんだな
と。とな かた ひょうみ とときき よ かた
唱え方の表見ましてある時気がついたんです。たとえば8の読み方です。2×8=16
とき い
の時は「はち」と言っています。3×8=24 といえば「ぱ」と言っています。4×8=32
とき よ
の時は「わ」と読みますね。5×8=40 の時は「は」と言って。こんな何通りも読み方が出来
るか ざん にほんご あ けっさく わたし あらた
るんだな。掛け算の九九というのは、日本語のごろ合わせの傑作ではないか、私がそれに改
め き ととき うれ はっけん きょういく かた とうぜん
めて気がついた時には嬉しい発見でした。教育にたずさわっている方にとっては当然なの
か もしれないですが、わたし あらた き えんゆうじゅく
かもしれないですが、私が改めてこういうことに気づかされたのは、遠友塾のみなさん
と おんきょう おも
とお勉強したからなんだと思っています。

ねんまえ いまごろ とうじ こくごか にんずう ひとり
11年前の今頃、当時の国語科がぎりぎりの人数でやっていたんですが、そのうちの一人が
どうしても都合つかなくなって、ひとりへ しんこく ひとでぶそく
どうしても都合つかなくなって、一人減ることになりまして、深刻な人手不足になったんで
す。ところ わたし じゅぎょうう かた おも し ひろしま
す。ところで私は、授業受けた方にはまたかと思われているかも知れないんですが広島カ
ープのファンでして、じゅぎょうちゅう ひろしま ひろしま だっせん ち かよ じゅぎょう
授業中も広島が広島がとつい脱線ばかりで、血の通った授業どこ
ろか、ちまよ じゅぎょう
ろか、血迷った授業になってしまうんですけど。その時、とき とくながせんせい い
その時、徳永先生に言われたんです。

ひろしま ゆうしょうに
「なに、広島が優勝逃がしたからショックだって？ふん、そんなの弱いから負けるのよ、そ
れよりあなたね、こくごか しんこく い け お こくごか
れよりあなたね、国語科が深刻なんだから、行っといで」と蹴りだされ、押し、国語科に
か がつ にち わたし じゅく だい かいめ こくご じゅぎょう
変わったわけなんです。ちょうど9月の30日が、私が塾での第1回目の国語の授業だっ

たのです。今でもはっきり覚えています。国語科に移っても掛け算の九九表のときのよう
に嬉しい発見がいろいろ出来ればいいなと思いつつ授業の準備をやっているわけですね
ど。国語科でも発見はあるわあるわという感じ。かな遣いひとつとっても、漢字のつくりひ
とつとっても、ああなるほど、自分は習ってきて分かっているつもりだったけれどちゃんと
分かってなかったんだなど、まさにへーへーという思いの連続です。数学でも国語でもある
いはほかの教科でも、こんなの当然だと思ってしまうたら、なんか勉強はつまらなくなっ
てくるんじゃないかなと思います。誰が言ったんだかちょっと忘れたんですけど、人間と
いうのは、真理の前には皆赤子であるという、つまり赤ちゃんであるという言葉があるよう
ですけど、私も未熟な一学習者として、まだまだ勉強していきたいと思います。こん
なこと話していますと、徳永先生の「そうよ！学ぶことが驚きと楽しみの連続である限り
遠友塾は永遠に不滅よ！特に今日は4つも学校がそろっているんだから、わっはっはっ
は！」こんな声が聞こえてきそうな気がしてきました。最後に数学科時代から今まで私の
へたな血迷った授業を熱心に聞いてくださいました卒業生の皆様、それから今現在受講し
てくださっている皆様、それから常にあたたかくサポートして下さっています全スタッフの
皆様、それからいつも温かい援助をして下さっています賛助会員の皆様、本当にあらゆる方
に感謝申しあげまして、そしてこれからも旭川、釧路、函館での発展を心からお祈り申し
あげまして、しめくりとしたいと思います。どうも今日はありがとうございました。

司会

ここ20年、遠くから通ってこられていた方々がいらっしゃったと聞いております。釧路か
ら通われていたご夫婦とか、今は名寄市になっていると思いますが風連から通っていらした

方もおられたということです。私が直接知るところでは函館から卒業までの3年間一度も
 休まずに通われた方がいらっしゃいました。本当に頭が下がります。現在でも伊藤郷子さ
 んは室蘭のむこうにあります伊達から通ってくれている方なんです。以上で生活体験の
 発表を終わらせていただきます。

全道自主夜間中学の紹介

司会

遠くから仲間として駆けつけてこられた旭川遠友塾の方、函館遠友塾の方、釧路「く
 りかい」の方をご紹介します。



▲ 全道自主夜間中学のなかまたちの紹介（左から旭川4名、中央司会、釧路2名、函館2名のみなさん）

あさひかわえんゆうじゅく
旭川遠友塾

あさひかわ めい わたし めい じゅこうせい ねんせい めい
旭川からまいりました4名です。私はスタッフで、こちら3名が受講生、1年生が2名
ねんせい めい あさひかわ きよねんはっそく ねんめ きょう はなし
と2年生が1名です。旭川は去年発足させていただきまして、まだ2年目です。今日お話し
き かぎ さっぽろ ねん あゆ きず かんどう
を聞いた限りでは、札幌のこの20年の歩みとといいますか、築きあげたものに、ただただ感動
さっぽろ すば すば ねん あさひかわ
して、札幌は素晴らしいね、素晴らしいはずだ、20年やっているわけだから。旭川はまだ
ねんはん ねんご さっぽろ ま がんば おも きょう
1年半だと。でも20年後には、札幌と負けないくらい頑張りたいなど、そういう思いで今日
き
は聞かせていただきました。ほんとうにありがとうございます。

はこだてえんゆうじゅく
函館遠友塾

はこだてえんゆうじゅく ふたり はこだて がつ
こんばんは。函館遠友塾からスタッフ二人でやってまいりました。函館はまだこの4月に
はじ ほんとう う あか さっぽろ はなし
始めたばかりですので、本当に生まれたての赤ちゃんみたいなものです。それでも札幌の話
きよねん じゅんびだんかい き ま
をいろいろずーっと去年の準備段階から聞かせてもらってましたので、それに負けないよう
おも はじ むじゅん
にという思いはあるんです。けれど、なんせ始めたばかりで、いろいろな矛盾がそこらじゅ
で なか すこ あたら ところ ほか
うに出てくる。そういう中で、それでも少しずつでも新しい試みをしていまして、他では
たぶん つき かいきゅうしょく かんたん けいしょく た ぼしょ つく
多分まだされてないのかな、月に1回給食とか簡単な軽食を食べる場所を作っていると
こんどえんそく みな おんせん い おも がつ よてい ふく
か。今度遠足も皆で温泉に行こうと思って、10月に予定をしますけど。そんなことも含め
て、ほんとぼちぼちとやっていきたいなど。やはり会場問題というのほども抱えている
いま ひとへや にん じゅくせい にん はい なん
みたいですが、うちも今は一部屋で50人、塾生50人にスタッフが入って何とかやっています。
らいねん いまなや かだい
さて来年からどうなっていくのかなと、今悩んでいます。そんな課題をかかえながらもやっ
ねが
ていきますので、みなさんよろしくお願ひします。

くしろ 釧路「くるかい」

くしろ さくま まえ まいしゅうまいしゅう がくしゅうしゃ
釧路くるかいの佐久間です。なにをお前はやっているのか。毎週毎週、この学習者に

しえんしゃ く あ つく しごと いそが うえ
はこの支援者と組み合わせを作る仕事をしています。忙しいことこの上ない。しかも

あ まえ さき きしゃ なか ごとう ひとこと い
ちゃんとやれて当たり前。先ほど汽車の中で、後藤さん一言もそんなこと言わないのに。こ

ば ぼく ほう なら たい しえんしゃ いけん あ
の場になって、僕の方を睨みながら、一対一で支援者と意見が合わないことをいう、やあや

あ、まいりました。ほんとう まいにち くる
あ、まいりました。本当にそのとおりであります。毎日それで苦しんでおります。それで

がつ む いまなに い たい むり き すこ えが
10月に向けて今何をしているかと言うと、一対一に無理が来たので、少しカーブを描いて

グループとグループにして、こくごならこくご、めざ ひと でき あつ
グループとグループにして、国語なら国語、おなじものを目指している人を出来るだけ集め

しえんしゃ ねんぱい ひと がくせい く せきにんしゃ き りんきおうへん
て、支援者も、年配の人も学生さんもグループを組んで、そこで責任者を決めて、臨機応変

がくしゅうしゃどうし そうだん しえんしゃ たい よ い
に学習者同士が相談しながら、そして支援者も1対1で良いものはそのままで生かす。そう

でないものはしゅうだんしどう さき はこだて
でないものは集団指導でと、こんなことをやってみようと。先ほど函館さんがおっしゃら

とお ほんとう み くしろこう ふね きり なか ふなで
れた通り、本当に見えないもので、釧路港からでる船のごとく、霧の中に船出するようなも

なに なん たいへん はなし そっちよく き
んですから、何が何だかわからない。大変いい話を率直に聞かせてもらいました。みなさ

き くしろ かいじょう め う おも
んおそらく聞いていて、釧路の会場が眼に浮かんだんではないか、そういうふうと思うん

ふか ふか はんせい じかん きょう
ですけれど、深く深く反省して、時間が今日ありましたら、こうしたらいいよ、こういった

きを せ お かえ きしゃ の こ
ものをぜひぜひ聞かせていただきたい。それを背負って、帰りの汽車「おおぞら」に乗り込

おも
みたいと思います。

8. 会場からの感想

あさひかわえんゆうじゅく じゅこうせい たにだ
旭川遠友塾 受講生 谷田 まさよ

みみ わる おお こえ だ ねが もう さつぼろえんゆうじゅく
耳が悪いので大きい声しか出せませんので、よろしくお願い申しあげます。札幌遠友塾

しゅうねん ほんとう あさひかわ も い い
20周年おめでとうございます。本当は旭川のみんなからタオル持って行きなさいと言わ

れたんです。ものすごく涙もろいので、今からもう、うるうるなんですけれど、皆様の

せいかつたいけん はな き ほんとう かんどう わたし とく ふしみ ゆうこ
生活体験のお話を聞きまして、本当に感動しました。私としては、特に伏見裕子さんに、

わたしじしん はな かんみ み ほっぴょう いただ しあわ ふしみ
私自身とかぶるお話しがありまして、紙も見ずに発表して頂けてとても幸せです。伏見さ

ん、この後も頑張ってくださいね。立派なオバタリアンになれます。私もこういう風に生き

てきて、オバタリアンになっています。でも幸せです。皆様とお会いできて、とても感謝し
ております。ありがとうございました。

さつぼろえんゆうじゅく そつぎょうせい いしい
札幌遠友塾 卒業生 石井 ヨシエ

みなさん、こんばんは。今まで話すことを覚えていたのに…。私の好きな言葉に、生ま

れつきのことや、すでに終わってしまったことを悩むよりは、積極的に努力し、精進する

ことが大切ですよという言葉があります。私は来月78歳になりますが、小学校もろくに出て

おりません。そんな自分が恥ずかしくて、人には決して話したことがない。そんな自分がな

んか今日恥ずかしくなりました。体験発表された方の、みなさんのお話を聞いて、私よ

りももっともっと大変な思いをされて生きてきた方がおられた、そういうことに感動致しま

した。そんな方々を優しく見守って、いろいろと指導してくださる工藤代表をはじめ、ス

タッフのみなさんに心から感謝します。

きょうは ほんとう あさひかわ も い い
これからも今日発表された方々、これからも頑張ってください。

9. おわりのうた 「きょうひ今日の日はさようなら」



▲ ぜんいん全員で「きょうひ今日の日はさようなら」の合唱がっしょう

10. おわりのことば

みやた 宮田 ともこ 友子

とうじつしゅつせき 当日出席いただいた さっぽろししぎかいぎいん 札幌市市議会議員

しみん 市民ネットワーク・えんゆうじゅく 遠友塾 スタッフ いとう 伊藤 まきこ 牧子

みんしゅとう 民主党・しみんれんごう 市民連合 おおしま 大嶋 かおる 薫

みんしゅとう 民主党・しみんれんごう 市民連合 はせがわ 長谷川 まもる 衛

しりょう えんゆうじゅく しゅうねんきねん しゅくぶん
【資料】 遠友塾20周年記念 祝文とメッセージ

さっぽろしぎかいぎいん じみんとう
札幌市議会議員（自民党）

むねかた まさとし
宗形 雅俊

さっぽろえんゆうじゅく しゅうねんきねん つど せいだい かいさい およろ いわ もう あ
札幌遠友塾20周年記念の集いが、盛大に開催されますことに慶びとお祝いを申し上げます。

みなさまがた まな たい いよく えんゆうじゅく うんえい みなさま ねつい
皆様方の学びに対する意欲とこれまで遠友塾を運営されてこられました皆様の熱意に

けいい はら しい みなさまがた じゅうじつ まな かんきょう びりよく
敬意を払う次第であります。わたくしも、皆様方の充実した「学ぶ環境づくり」に、微力

ながらじんりよく しょぞん ほんじつ あんない いただ みうち けいじ
ながら尽力していく所存であります。本日はご案内を頂きましたが、身内の慶事があり、

さんか わ もう あ えんゆうじゅく ほってん みなさまがた けんしょう
参加できませんことをお詫び申し上げ、遠友塾のますますのご発展と皆様方のご健勝を

きねんいた いわ いた
祈念致し、お祝いのメッセージと致します。

ほっかいどうぎかいぎいん みんしゅとう どうみんれんごう みちした だいき
北海道議会議員（民主党・道民連合） 道下 大樹

さっぽろえんゆうじゅく ねんきねん つど せいかい こころ いわ もう あ
札幌遠友塾20周年記念の集いのご盛會を心からお祝い申し上げます。

これまで「学びたい」という こころざし じっせん せいと みなさま せいと よ そ
これまで「学びたい」という 志 を実践されてこられた生徒の皆様、そして生徒に寄り添

い、その「学び」を支えてこられたスタッフや賛助会員の皆様にあらためて敬意を表しま

す。皆様方の学びの活動がさらに充実・発展されますよう、私も微力ながら応援させていた

だきます。本日は残念ながら出席できませんが、札幌遠友塾をはじめ道内の夜間中学に

おいて、学ぶ慶びの輪が益々広がりますよう、そして生徒やスタッフの皆様のご健勝ご

たこう こころ いの もう あ いわ
多幸を心からお祈り申し上げ、お祝いのメッセージといたします。

ほっかいどうぎかいぎいん みんしゅとう どうみんれんごう こばやし いくこ
北海道議会議員（民主党・道民連合） 小林 郁子

くろう おお ねん おも おお よろこ う だ
ご苦労の多い20年だったと思いますが、多くの慶びを生み出してくださりありがとうございますご

ざいます。「共に学ぶ」ことの素晴らしさと重要性を伝え、道においても支援の取組みが進

むよう努力してまいります。

【賛助会員のお願い】

遠友塾の趣旨に賛同され、援助して下さる賛助会員を募集いたします。
ご賛同頂けます方は、下記までお振込頂ければ幸いです。

年会費／一口 2,000 円（何口でも結構です）

振込先／郵便振替

口座番号：02730-3-44636

加入者名：札幌遠友塾自主夜間中学

発行日： 2009/12/01
発行者： 札幌遠友塾自主夜間中学
URL： http://enyujuku.com